

# プログラミングが熱い



スパルタキャンプ  
運営に聞く

株式会社 NEXT REVOLUTION  
代表取締役 高橋 一真 さん

## きっかけはスパルタキャンプ

第1期スパルタキャンプ修了生です。初めは、どんな人が地元で主催しているのか怪しく思いましたが、参加してみると、充実した内容で、刺激的な新しい出会いもあり、半年の間に続けて5回受講しました。その後、当時スパルタキャンプを運営していた会社に入社。教育事業を引き継いで、地元八幡平市に現在の会社を起業しました。

運営側となった現在は、オリジナルアプリなどの成果物の制作を最終課題に組み込みました。参加者は、自分が作りたいものをイメージし、意欲的に取り組むので、カリキュラム通り教えること以上にスキルを身に付けてくれます。

## ユニークなロールモデルの存在

スパルタキャンプの良いところは、起業家や移住者など身近にユニークなロールモデルがいることだと思います。修了生の中には、市内でシェアハウスを起業し、移住を希望する受講生の受け皿となっている人もいます。斬新なチャレンジ精神に、私自身が刺激を受けています。

## 地元八幡平市を盛り上げたい

安比のペンションと協力し、GWに7日間集中型の有料版プログラミング合宿を予定しています。市には、たくさんの宿泊施設があるので、これからも連携して人を呼びたいです。また、今後は地元企業と交流を持ち、私たちのIT知識を生かして、業務効率化などから地域の発展に貢献していきたいと思っていますので、気軽に相談してください。

### 【問い合わせ先】

- ▶ HP <https://www.next-revolution.net/>
- ▶ メール [info@next-revolution.net](mailto:info@next-revolution.net)
- ▶ 電話 080-3147-6741

## 成長し続ける熱量

平成27年度：5回	70人
平成28年度：3回	86人
平成29年度：3回	208人
平成30年度：3回	414人
令和元年度：4回	1712人



スパルタキャンプのエントリー数推移

今や、ほとんどの産業で、ITはビジネスのベースになっています。IT関連市場は拡大し続け、義務教育に組み込まれるほどプログラマーなどの人材不足は深刻です。IT関連事業は、過疎地であろうが、都心であろうが、ネット回線さえあれば世界を相手にビジネスができます。場所にとらわれない働き方が広まり、地方の時代が来ています。

## 次代を見据えた先駆的取り組み

都心部へ若年層が流出し、地方では人口減少、高齢化が大きな課題となっています。市はその要因を仕事が少ないことではなく「仕事をつくれるプレイヤー」の不足と捉え、平成27年から、情報通信を中心とした起業を志す人材を育成する「起業志民プロジェクト」に取り組んできました。

本プロジェクトにおける最大の核である「スパルタキャンプ」は大きな成果を上げています。令和元年11月開催の第17期では、定員15人にに対し、44都道府県7カ国から483件の応募があり、競争率にして32倍を記録。現在開催中の第18期を含めると、令和元年度の応募数は1712件、累計応募数も2490件となりました。

プログラミングを学んだメンバーの活躍はとどまることを知らず、続々と起業。市起業家支援センターに立地した企業は、令和2年3月現在で7社に上り、本プロジェクトを契機に市内で立ち上がった会社をはじめとして、同センターで活動している事業体は、法人・個人を合わせて17社27人に及んでいます。

【関連記事22ページ】APTECH、データパイロット、八幡平スマートファーム

## メンバーが新たな世界を拓く

こうして本プロジェクトで育てたメンバーは、市内で教育事業や、受託開発、映像制作、ウェブサービスなどさまざまな事業を立ち上げています。

そこで今回は、4月から小学校で必修化されるプログラミングに注目。八幡平市から未来のグローバルやアマゾンを生み出す若者を育てようと、スパルタキャンプで学んだプログラミング技術を子どもたちへ伝える独自の取り組みを紹介します。今、プログラミングが熱い――。

# 「遊び」から生まれる「学び」

市には、スパルタキャンプがきっかけで、プログラミングの教育事業を起業した人、教えられる人がたくさんいます。それって、都会ならいざ知らず、一般的に田舎と呼ばれる地域では、非常に珍しいことではないでしょうか。実際プログラミング教室では、どのような学習しているのか、紹介します。

## プログラミング体験教室開催

小学生向けプログラミング教室「アクセルキャンプ」の無料体験教室が2月9日、平館の学習塾「学び舎 Plat form」で開かれました。今回は冬の特別教室として、夏休みの初回と同様、無料で開催。参加者は、市内外の小学5、6年生9人で、うち6人は夏の特別教室から引き続きの参加です。

## スパルタキャンプ修了生が講師

講師を務めたのは、八幡平市地域おこし協力隊の吉田力さん。第14期のスパルタキャンプ修了生で、受講を機に地域おこし協力隊に応募し、当時住んでいたハワイから移住した経歴の持ち主です。講師のアシスタントは、アクセルキャンプを運営するアクセルゲート合同会社の阿部拓磨代表（6、7歳で紹介）が務めました。

## ビジュアルプログラミングから

画面の中だけで完結するのではなく、目の前にあるロボット（モノ）が、自分のプログラミングで動く方が楽しいでしょ！ということで、今回は「スフィロ イーディーユー」のアプリを使つての授業。ボール型ロボットの「スフィロ」に iPad で命令を送ります。今回はプログラミング言語は使わず、プログラムの部品となるブロックを、画面上に並べたり、入れ子状態に組み合わせる視覚的に分かりやすい「ビジュアルプログラミング」で行いました。果たして子どもたちは「スフィロ」に、自分たちの思い描く動きをうまく命令することができたのでしょうか…



本日行うのは、  
ロボットプログラミング！  
使うのは、コチラ

iPadと  
ボール型ロボット

その名も、  
「スフィロ」です

スフィロを動かしたい  
方向・スピード・時間を入力  
迷路をクリアできるかな??

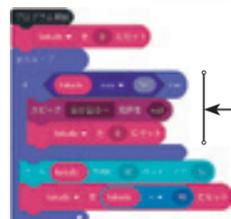
### 1 順次処理

- ← kakudo(角度)を0度にセット
- ← 0度方向にスピード50で2秒進む
- ← 角度を0+90度にセット
- ← 90度方向に同じだけ進む
- ← 角度を90+90度にセット
- ← 180度方向に同じだけ進む
- ← 角度を180+90度にセット
- ← 270度方向に同じだけ進む
- ← 角度を270+90度にセット
- ← 360度方向に同じだけ進む

### 3つの基礎構造

#### 3 条件分岐

「もし、AならBする」と条件付きの命令もできます。



『角度が360度になったら、「目が回る〜」と話し、角度を0にセット』と条件を提示した3つのブロックを追加

### 2 反復

1と同様、  
正方形を描きます。



命令の数を少なくしたことで、より早く処理できます。

まだまだ  
やり足りないよ！

／ 終了！楽しかった♪ /

## そんな君にお知らせです アクセルキャンプ プログラミング体験教室

- 対象 小学4～6年生
- 日程 3月14日(土)
- ▶午前の部 10時から正午まで
- ▶午後の部 2時から4時まで
- 場所 平館コミセン
- 定員 各部12人(先着順)
- 費用 無料
- 申し込み方法 右のQRコードを読み取り、応募フォームから申し込みしてください。



## 子どもの興味をかき立てたい

学校の授業以外のことも学んでほしくて開催を持ち掛けました。夏休みに引き続き2回目です。講師を務めた吉田さんと7月と10月に英語のイベントも開催。スパルタキャンプをきっかけに移住した人つながり、面白いイベントが生まれています。これからも子どもたちが楽しみながら学べる環境を作ってまいります。



学び舎 Plat form  
代表 高橋 大介 さん

## もっと知りたい、やってみたい

夏に引き続き、2回目の参加です。スフィロに言葉を読ませたり、色を変えたりと、いろいろな条件に応じて、ブロックを組み合わせました。前回参加した時よりも複雑になって難しかったのですが、同じ動きを一つ一つ入力するのではなく、省略して入力する仕組みを知れたので、よかったです。何より楽しかったので、また参加したいです。



かなと  
鈴木 奏斗 君(松野小5年)  
母・圭子 さん

## ゲームの時間をプログラミングに

チラシを見て子どもがまた行きたいと言ったので、参加させました。4月からプログラミングが小学校で必修化となるので、いい機会だと思いました。家では、ゲームをしたり、動画を見たりしていることが多いですが、その時間や興味がプログラミングに向き、将来仕事に就いたときに役立ってくれればいいなと思っています。

# さあ、未来を創造しよう

スパルタキャンプがきっかけで、プログラミングの教育事業を起業した阿部拓磨さん。これまで教えてきた経験から、小学校のプログラミング必修化を間近に控えた今、プログラミングを学ぶことで、どんな未来が想像でき、どんな変化を創造することができるのか——。その思いを聞きました。



アクセルゲート合同会社  
代表社員 阿部 拓磨 さん

## Profile

スパルタキャンプでiPhoneのアプリをつくるための言語であるSwiftを学ぶ。子ども向けにSwiftを教えるプログラミング教育事業「アクセルキャンプ」の運営を主として手掛けるため、平成30年1月に同社を立ち上げた。

**子どもたちの可能性は無限大  
プログラミングを始めるなら**

**早ければ早い方がいい**

「幼いころにプログラミングを始められればよかった。長く続けているだけ、知識が蓄えられ、プログラミング技術は上達します」と声を弾ませるのは、プログラミング教育事業「アクセルキャンプ」を運営する、アクセルゲート合同会社代表社員の阿部拓磨さん。何か新しい技術を身に付けようと、第7期スパルタキャンプに参加したことがきっかけで、プログラミングに興味を持ち、子ども向けにプログラミング教育をする会社を起業しました。

これまで、八幡平市や盛岡市など

で、プログラミング教室や体験イベントを開催してきました。小学校で必修化されるプログラミングは、今でこそ都会で続々とスクールが登場していますが、田舎ではなじみが薄いかもありません。阿部さんは「小学校の授業が、プログラミングに興味を持ち、学ばせたい」と思っています。これからの時代、プログラミングは必須です」ときっぱり。小学校では、プログラミング言語を教えるわけではなく、プログラミング的思考を身に付けさせることを狙いとしています。が「子どもたちの意欲や集中力は、大人よりもすごい。小学校で英語教育もしている中で、プログラミング言語に抵抗感が少なく、新しいことをすぐに吸収していきます」と子どもたちのポテンシャルを感じています。



**これから多くの仕事は変わる  
ITに明るい地域になれば**

**八幡平市の未来も明るい**

今ある多くの仕事が機械で自動化されるであろう、近い将来を見据え「子どもの可能性を引き出したい。そのため、少しずつだけプログラミングを広め、いずれ市内の子どもたち全員に学んでほしい」と目標を語る阿部さん。学ぶ子どもが増え、八幡平市が大人から子どもまで、ITリテラシー（※ITに関する理

解力）が高い地域となることを望みます。まだまだ、エンジニアが足りず、世界から後れを取っている現状に危機感を抱きながら「ITに明るい地域になれば、企業が来て、市内に働く場が増えるかもしれない。また、市に残りながらテレワークで働くことができるかもしれない。出ていくのではなく、学びたい人、雇いたい人、働きたい人が市に来るようになる」と楽しいですね。だからこそ、ここから世界に発信できるように「笑みを浮かべました。」



## はちまんたい通信とコラボ

3月の高橋一真さんのインタビュー記事は、市地域おこし協力隊の松本侑子さんが担当しました。実は、松本さんもスパルタキャンプの修了生。そして移住者です。

今回、特集を組むに当たり、プログラミングに関する知識があり、自身が編集長を務める移住・定住サイト「はちまんたい通信」で、高橋さんを紹介した記事を連載したことがあることから、協力を依頼しました。

はちまんたい通信は、ライターとして活動する松本さんが、移住者にインタビューした読み応えある記事が人気。他にも、高橋さんのように市で頑張っている人や市内で開催されたイベントなども紹介しています。

市内の人も、市外で八幡平市に移住を検討している人も十分満足いく内容です。ぜひ、サイトを訪れてみてください。



はちまんたい通信の  
QRコードはこちら

